

授業の実際 6 / 9

(1) 指導目標

「雨のうた」の各声部の音やイ短調とハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達のと調和させて合奏ができるようにする。

(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導 (○)、支援 (●)、発問 (★) 児童の主な反応 (・)	評価規準と評価方法
導 入	0 音楽遊びをする。	○ミュージックベルで和音づくりをして、楽しく学習が始められるようにした。	
	1 めあてをつかむ。	○「雨のうた」の範唱を聴き、合奏のイメージをつかませるようにした。	
展 開	<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">イ短調とハ長調の響きの違いを生かして、合奏をしよう。</div>		
	2 イ短調とハ長調の和声の響きを感じ取りながら演奏の仕方を工夫する。 (1) 担当するパートを選ぶ。 (2) グループで工夫するポイントや気を付けることを話し合う。	○グループで工夫をした後に、全体で工夫することを伝えた。 ○生活班で6～8人のグループをつくらせた。 ○主な旋律と副次的な旋律を担当する児童には、4・5時目の学習を生かして、演奏の仕方について考えるように伝えた。 ○グループで表現の工夫がうまくできなかったことを振り返らせ、本時で工夫するポイントを2～3つ決めさせた。 ○グループごとに気を付けることについて考えさせ、目的をもって取り組むことができるようにした。	
開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">★グループで、工夫のポイントを3～4つ決めましょう。</div>		
	工夫の仕方の例 <工夫するのポイント> ・ ア と イ で速さを変える。速さが合うように演奏したい。 <気を付けること> ・メトロノームを使って、どれぐらいの速さが一番いいのかを話し合ってから歌う。 [助言] ・演奏するように歌いながら手拍子を打って、速さをつかむ練習をする。 ・はじめは、低音の人が「1・2・3・4」と速さを声に出して速さをそろえる。	○工夫のポイントや気を付けることの例を示したり、助言したりした。	

○楽譜でイ短調の部分とハ長調の部分を確認し、それぞれの雰囲気合った表現の工夫を考えることができるようにした。

発問の工夫④

★曲のよさや面白さが伝わるように、それぞれの工夫のポイントについて、どのようなことを気を付けて演奏すればよいと思いますか。

<工夫するポイント>

- ・音を間違えないように演奏するようになる。

<気を付けること>

- ・二人で互いの音を聴いて、間違った音を出していないか確認しながら演奏する。

<工夫するポイント>

- ・主な旋律が目立つような演奏にする。

<気を付けること>

- ・リコーダーの人数を多くする。演奏しながら何人がよいかを決める。
- ・オルガンの音量レベルを下げて演奏する。演奏しながら、ちょうどよい音量になるようにする。

<工夫するポイント>

- ・**ア**は、全体的に音を弱くして、イ短調の静かな感じを出したい。
- ・**イ**は、全体的に音を強くして、ハ長調の明るい感じを出したい。

<気を付けること>

- ・他のグループに演奏を聴いてもらい、強弱が表現できているか評価をしてもらうようにする。

展

開

(3) グループで演奏を工夫する。

○練習に必要なものがあれば、必要に応じて使用してよいことを伝えた。

- ・メトロノーム ・カスタネット
- ・キーボード ・レコーダー

○活動の様子を見て、適宜、助言した。

○30分後に成果発表をすることを伝えた。

○時間短縮のために、部分的に練習するように伝えた。

○感想や助言を伝え合う時間を確実に確保するために、2つのグループで聴く側と演奏する側になり活動させる場を設けた。

○工夫のポイントについての自己評価をワークシートに書かせることで、目的をもって練習ができるようにした。

○表現の技能を高めさせるために、感想だけの交流にならないよう適宜、助言した。

「雨のうた」の各声部の音やイ短調とハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて学校している。

【技② ワークシート・演奏聴取】

